鷺照吟詠会
会報
第二十一号

発　行
公益社団法人
関西吟詩文化協会
公認鷺照吟詠会

コロナを乗り越え
吟友の輪を広げてゆこう！

会長　大取鷺照

草木が芽吹き、花々が咲き、気候の良い穏やかな好季節の春が巡ってきました。会員の皆様にはお元気で吟詠活動に精進されていることとお喜び申し上げます。平素は会の運営にご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナの影響で延期になった東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手の大活躍に感激し、勇気と感動と元気をもらいました。

コロナの蔓延により、引き続き今年も、声を出す我々の吟詠活動は、教場や発表会場の使用制限など厳しい状況が続いています。感染防止に努めながら、競吟大会、集い、常任理事会、指導者研修会、初吟会など、「仲良く、楽しく、健やかに」のスローガンのもと、可能な限り諸行事を開催していきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

今年度は役員改選期にあたり、三月の総会で新役員が選出されました。新役員の先生方、会の発展のためご協力よろしくお願い致します。前期で副会長を勇退された坂本繃照先生、指導部理事を勇退された武川琥照先生には、長年にわたり会を支えて頂き厚く御礼申し上げます。

また、今年は白鷺連合会創立六十周年記念大会が、十月三十日午後一時より宝塚ホテルで開催されます。故伊豆丸鷺洲先生が、昭和三十年代初め頃から大阪から岡山、広島へと関西吟詩の吟の普及活動をされ、その子鷺・孫鷺が集まります。素晴らしい舞台や吟が、今から楽しみです。皆様ぜひ一緒に参加しましょう。

関西吟詩総本部では、来年の創立九十周年記念大会に向けて、会員一万人復活キャンペーンを来年の三月まで行っています。コロナ禍で会員増員を進めていくことは大変ですが、一教室一名増員を目標に頑張れば、目標達成は決して夢ではありません。

鷺照吟詠会の新年度の会員は、二百十九名と昨年より三名増員しています。これも会員の皆様の努力のお陰です。引き続き詩吟の効用（詩吟を続けているとストレスの発散ができ、姿勢も良くなり、腹式呼吸で発声するので内臓も丈夫になり、歌もうまくなり、度胸も集中力も記憶力も教養も身につきます、詩吟は年代を問わず楽しむことができます、など）をアピールして頂き、「身近な人に声をかけ」吟友の輪を広げてゆきましょう。

令和四・五年度鷺照吟詠会役員

相談役	永井厳照（江陽）
〃	鈴木睨照（梢雲）
会長	大取鷺照（中山）
副会長	内田菖照（皐月）
〃	中山瞳伸（梢雲）
事務局長	内田菖照（皐月）
次長	河田轟声（中山）
理事	花房鴒笙（梢雲）
指導部部長	内田菖照（皐月）
理事	片山鷺丘（総楽）
〃	大取鷺照（中山）
〃	坂本繃照（岡南）
〃	中山瞳伸（梢雲）
〃	多田葦照（有朋）
〃	石田燃照（有朋）
〃	木谷睨秀（有朋）
〃	内座慶玲（岡南）
企画理事	中山瞳伸（梢雲）
〃	池上醒照（中山）
〃	石田燃照（有朋）
〃	木南駿照（中山）
〃	木谷睨秀（有朋）
〃	鈴木厳翔（江陽）
〃	窪田礎照（総楽）
渉外理事	河田轟声（中山）
〃	青木琥真（岡南）新
会報理事	木南駿照（中山）
会計理事	鈴木厳翔（江陽）
会計監事	新池亥照（吉照）
〃	田辺通照（総楽）
青年部部長	木谷睨秀（有朋）
副部長	内座慶玲（岡南）

「集い」への想い

岡山江陽支部　臼井　僚子

今年、二年ぶりに「鷺照吟詠会の集い」が開催されることになりましたが、何とその場所が岡山県生涯学習センター（岡山県立短期大学の跡地）ということではありませんか。急に懐かしさが込み上げてまいりました。思えば、短大生数人が集まり詩吟のサークルを立ち上げたいと岡山大学吟詩部に相談したところ、快く賛同頂き、三代卒部生で岡山県庁に勤務されていた永井先生が講師として来て下さることになりました。お忙しい中を、経験知らずの私達の為に貴重な時間を割いて全力で応えてくださいました。

初対面の時、古い校舎の木造の階段を上がってこられる足音、どんな方だろうとドキドキしながらお迎えした事、そして吟への思いを熱く語って下さったこと、兎に角この人についていこうと心したことなどが、昨日のことのように思い出されます。それが私達、吟への原点でもありました。しかし現在の岡山県生涯学習センターにはあの当時のものは一切残っておらず、ただ朝靄に聳える京山は変わりなく、懐かしく仰ぎました。

いよいよ「集い」が始まり、参加者は約百四十名。会場は舞台も楽屋もなく視聴覚機器の設備はあるものの、普通の会議室と変わらないものでした。またコロナ感染予防対策の影響でマスクを着けたり外したりしながら、何かとざわつくところもありましたが、進行するにつれ引き締まる思いでした。岡山大学吟詩部の気迫溢れる合吟で始まり支部別吟詠など、一年間の練習の成果が発表されました。

中でも一番感銘を受けたのは、梢雲支部所属のお二人の恩師を

偲んだ構成吟でした。永井先生にお伺いすると、片岡慧照先生と二宮鴇照先生は昭和一ケタ生まれの同い年、お亡くなりになられたのも同じ年とは何という偶然でしょうか。

鷺照吟詠会の長い歴史の中でも激動の一時期に、片岡先生は副会長、二宮先生は会計として佐藤鷺照先生をしっかりと支えて来られた功労者であるとのことでした。

ナレーションでは、最後の教室はほんの一週間ばかり前のこと、「いつものようにお洒落で凛としたお姿で教室にいらっしゃった先生のお声が残っています」と、お弟子さんの悲痛なお声が心に沁みてまいりました。そしてスクリーンに映し出された在りし日の両先生のお顔やお姿を見るにつけ、会場が岡山大学創立五十周年記念館の広い舞台で舞台照明、映像音響等フル装備で再演して頂きたい作品であると思ったのは、私一人ではないと思います。

競吟大会の優勝者吟詠は、いつも感じることですが、一年間の活躍ぶりはさすがでしたし、それに続き吟士権者の中山瞳伸先生の「述懐」に引き込まれてしまいました。特別吟詠の「シルクロードの詩～遥かなるペシャワール」はストリートチャイルド支援チャリティーコンサートの再演でしたが、演出として中国からの留学生で岡山大学吟詩部員の王燕翎さんによる中国語朗読という一工夫がありました。こんなにも美しい中国語は今まで聞いたこともなく魅了されました。

大取会長による吟詠研修は近代詩「道程」でしたが、最後の締めに相応しいものでした。当初予定していた会場が急遽使用禁止となるというアクシデントも生じましたが、役員皆さんのご尽力と全会員のご協力で無事終了できたことは最大の喜びでありました。

それにしても会場後列で、所狭しと一列に私達を囲むように並んで下さった岡山大学吟詩部のメンバーは頼もしく感じましたし、この人達の協力がある限り未来があるように思います。

二〇二二全国吟詠大会in大阪に参加して

岡山梢雲支部　今井　彩乃

朝から少し風が冷たく感じられた令和三年十月十七日、岡山駅のホームに、九時五十三分発の新幹線は軽やかに滑るように入ってきました。なんとピンクに彩られた車体に「ハローキティちゃん」の絵柄が入った新幹線にびっくりでした。今は色々な分野でアニメの主人公達が、子供だけでなく大人も楽しませ、また経済をも動かす力があり、時代は大きく変化していることを感じます。

電車に乗り継ぎ大東市立総合文化センターに着くと、コロナ対策をして役員諸先生方の出迎えを受け、会場に入っていくと早くも場内は凄い熱気に包まれていました。定刻の時を迎え幕は静かに上がり式次第は進み、新しく師範代、準師範、師範に昇格された皆さんは「鶴の恩返し」、各地区の先生方は構成吟「日本列島　吟詩の旅」に出演しました。第二部の幼少年吟詠の四名は幼いながら素晴らしい吟詠で、わが子が・・孫が・・の思いが重なり、惜しみない拍手の波が続きました。

第四部の全国大会優勝者の吟詠は、沢山歌い込まれ、自分のものにされていて素晴らしいものでした。圧巻は指導局吟詠でした。ただただ息を止めて聞き入っている自分がいて・・声もなく感動でした!!

参加者の皆さんが吟じた六十三の詩は遠い昔、中国や日本の人々がそれぞれの時代に生き、喜怒哀楽の熱い想いを詩にしたためたものでしょう。時代背景を想像しながら読むと作者の思いが伝わってきます。改めて巻頭言を読むと全てのことが盛り込まれているように思います。生きている限り「修養せよ」と優しい風が頬を撫でていった・・。関西吟詩文化協総本部の皆様、企画運営して頂きありがとうございました。

合掌

チャリティーコンサート「詩吟と舞のアルバム」に参加して

岡山岡南支部　内座　由紀葉

令和四年二月二十七日、西川アイプラザにて開催された、第二十一回ストリートチャイルド支援チャリティーコンサートに参加しました。

今年は「趣向吟～詩吟と舞のアルバム～」と題して、会員の吟詠と、岡山大学吟詩部の皆さんによる剣詩舞を中心に、中山先生が構成・演出を手掛けられました。他の演目では、フラダンスや古武道等、二十組を超える個人や団体の参加があり、会場は熱気に包まれていました。

まずは、「名槍日本号」から始まりました。福島正則に大杯を勧められ、それを太兵衛が飲み干す場面を浦上さん、高橋さんが演じ、その後、唯一無二で惹き込まれる声の木南さんの吟に合わせて内田さんが堂々とした扇舞を披露されました。

続いて楠木正成と息子正行との今生の別れを詠んだ「櫻井訣別」を、佐藤さんが情感を込めて熱く吟じられ、葉廣さん、中野さん、新美さんの息の揃った剣詩舞。三人の「えーい」というかけ声とともに素早く振り下ろされる剣に、会場中が目を奪われていました。

また大楠公を称えた「金剛山」を、大取会長が、どこまでも伸びて響き渡る声量で吟じられ、剣舞を岡崎さんが剣先まで集中した丁寧な舞をして下さいました。

最後に、王さんの中国語による「峨眉山月」の朗読（録音）の後、笹木さんの扇舞と共に私が吟じさせて頂きました。力みすぎて安定しないテンポの吟に、ぴたりと動きを合わせて扇舞をして下さり感謝です。ナレーションを務めた前田さん、貝原さんのスムーズな進行もあり、会として予定通りの約十五分間の舞台発表でした。

コロナ禍で練習場所や時間の制限がある中、各々が練習の成果を舞台で発揮できたのではないかと思います。終了後「良いものを見せて頂いてありがとうございました」という声が聞こえました。

今後も、吟剣詩舞を盛り上げる事に少しでも力になれるよう日々精進していきたいと思います。皆さんで作り上げる舞台は、毎回たくさんの刺激を受け学ぶことが多いです。最近、カチカチに凝り固まったアタマと身体。詩吟を純粋に楽しむ、という姿勢を忘れかけていたことに気付かされました。

中山先生をはじめ、ＤＶＤ編集やスクリーン映像の準備をして下さった木谷先生、裏方スタッフの岡山大学吟詩部の皆さん、着付けや衣装準備をして下さった皆さん、練習に関わって下さった先生方や教室の方々、大変お世話になりありがとうございました。

令和三年度 鷺照吟詠会競吟大会　報告

鷺照吟詠会事務局　河田　博行

九月二十六日（日）労働福祉事業会館において、令和三年度鷺照吟詠会競吟大会が開催されました。

終息を見ないコロナ禍で、五月十六日に予定されていた前期競吟大会が中止となったため、今回も後期競吟大会と合体させての開催となりました。前年同様、制約の多い大会となりましたが、新人の部から最上級の部までの十部門に、岡山大学吟詩部五名を含む総勢六十一名が出場し、熱吟を競いました。

（結果は別記参照）

なお、前期競吟大会中止に伴う、岡山市文化芸術活動支援プロジェクトからの支援金で、アクリル板パネルやサーキュレーター等を購入。新型コロナウイルス感染防止対策をさらに強化し、参加者全員のご協力により無事大会を実施する事が出来ました。

【栄えある優勝者　喜びの声】新人の部　優勝

岡山中山支部　本郷田鶴子

去る九月二十六日、鷺照吟詠会競吟大会・新人の部に於いて、優勝できましたことを大変嬉しく思っております。吟題は、雄大な河の流れと、山にそびえる李白の「白帝城」を選びました。私はこの詩がとても好きです。

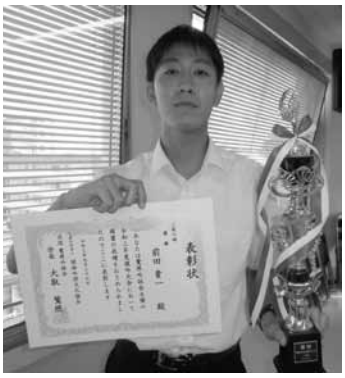
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公民館での活動が制限され、声を出す機会が減り、とても不安に思っていました。今更ながら、思いっきり声を出すことのできる場があるということは、とてもありがたいことだと気付かされました。私はマイクの使い方があまり上手ではなく、大取先生には何度も注意点を教えて頂きました。

今回は、マイクとの位置と距離に注意することができ、良かったと思います。また私は、先輩方のようにしっかりと安定した声がうまく出せません。特に高音になると苦しくなり、音

も下がり気味になってしまいます。たまに、自分には詩吟は向いていないのではないかと思い悩むこともありましたが、大取先生や先輩方の意見を聞かせて頂き、今は「息を吸って止めてゆっくり吐く」という呼吸法を頑張って続けています。一歩一歩ですが、できることから前に進めて行けたらいいと思っています。

これからも健康に気をつけながら、無理をすることなく、教室の皆さんとともに、楽しくお稽古ができるよう精進して参ります。この度は本当に有難うございました。

二段の部　優勝
岡山大学吟詩部　前田　貴一

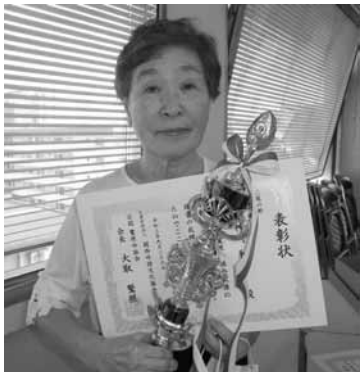


こんにちは。岡山大学吟詩部三回生の前田貴一といいます。この度は、鷺照吟詠会競吟大会・二段の部優勝者ということで、喜びの気持ちを書かせて頂きます。私は大学に入って初めて詩吟という文化に触れました。何も知らないゼロの状態から始めたため、最初はとても大変でしたが、先輩方の指導や自主練習により、徐々に詩吟のスキルを上達させていくことができました。そして、詩吟を始めてから二年と半年ほど経ち、この競吟大会という場で二段の部優勝という成績を残すことができ、大変嬉しく思っております。昨年の二月頃からは、新型コロナウイルスの影響により満足に練習ができる状況ではありませんでしたが、こつこつと練習してきた成果が発揮できたのではないかと感じています。

私は現在、吟詩部の上回生として後輩を指導する立場にあります。今後も、自分自身の練習はもちろん、後輩への指導にも今回の経験を活かしていきたいと考えています。また、更なるスキルの上達と、より上の段位で成績を残すことを目標として練習に励みたいと思います。

三段の部　優勝
岡山中山支部　神﨑　和子

この度は、三段の部で優勝の栄誉を頂き誠にありがとうございました。思い返せば大会の数か月前に心筋梗塞と脳梗塞を患い、それと同時に夫が直腸癌になり、二人同時に同じ病院に入院しておりました。夫は他には転移していませんでした。私も後遺症はなく、退院するとすぐ日常生活ができるようになりました。詩吟も再開しましたが、声を出すのも体力を結構使うのだと改めて感じました。車の運転は医師から止められていましたので、田中好子さん、安東さんに、送り迎えですっかりお世話になりました。



詩吟をすることで少しずつ体力がついてきている感じがします。声を出すのは本当に大切なことと改めて感じました。これからも健康のためにも詩吟を続け、体力もつけたいと思います。

大取先生、ご指導ありがとうございます。安東さん、いつも車に乗せて頂きありがとうございます。田中好子さん、細かいところまで気を遣って頂きありがとうございます。

華頂の部　優勝
岡山吉照支部　中尾　栄子

今回ほど自分自身に対する情けなさ、恥ずかしさ、そして喜びに感涙した事はありません。詩吟生活に永年携わらせて頂き、その間先生に「御免なさい、又来年頑張ります」と、何度いや何十回と謝ったことかわかりません。

出ることに意義ありと思い、友人に誘われるまま生まれて初めて新池先生の詩吟を聞き、その声と節回しに大変な驚きと感銘を受けた事が昨日の事の様に思い出されます。これが私の吟との出会いです。

競吟の都度入賞できなくても、人に不快感を与えてはダメ。他の人の喜びを共に喜べる様に、と自分自身に言い聞かせていました。又、新人にも、入賞できなくともそれは誰が悪いわけでもなく、自分自身の力不足と受け止め、「来年頑張ろうね」と話しながら今日に至りました。山の坂道での稽古。上を向くからダメ。今度は下を向いての練習、と。

いよいよ旭中学校の体育館で初めての競吟大会に参加。五人合吟で、上着は白、下はワインカラーのロングスカート、靴は身長に合わせた高さで出吟。音出しはなく、第一声はなんとなんと十二本。あまりの不出来に恥ずかしくて五人共控室からなかなか出て行く事が出来ず、急いで車の中へ避難。「恥ずかしい、恥ずかしい」と言いながら、カセットテープで自分たちの吟を聞き、まあまあと慰めながらやっと席に戻った事でした。

又、大阪での連吟大会。私は喉のポリープの為、声がガラガラで聞くに堪えない声でも相方が一生懸命練習していましたので申し訳なく、安部さんの吟だけでも聴いて頂きたいと思いながら忍んで出吟した事を思い出します。

これからもボケ防止に、楽しみながら皆様をお誘い出来ればと思っています。

本当に有難うございました。感謝申し上げます。

壮年Ⅱ部　優勝
岡山総楽支部　林原　茂樹

今般の前後期合同の競吟大会に於いて、優勝の栄誉を頂き、誠にありがとうございました。これも偏に日頃よりご指導頂いている片山鷺丘先生、田辺通照先生のおかげであり、又、教室の皆様の励ましのおかげと感謝致しております。

詩吟を始めた頃は吟法もさる事ながら節回しも理解できず、ただただ先生の物真似で発声していました。約一年位でやっと音程が取れる様になり、少しずつ教室の人に付いていく事が出来、現在に至っています。

さて、今回の大会に出場する事を決めてから「さあ頑張るぞ」と、人気のない場所（早島インター付近）で遠慮しないで練習が出来た、これが良かったのではと思っています。

これからも健康に留意し、楽しく吟ずる事を心掛けて精進して行きます。諸先輩方、ご指導のほど宜しくお願い致します。

連吟の部　優勝

岡山総楽支部　白神　陽子

新型コロナウイルス感染の収束が見通せない中、役員の方々のご尽力で感染対策が講じられ、競吟大会が安全に開催されました事に大変感謝申し上げます。この度は連吟の部で優勝を頂きありがとうございました。

国内に感染が拡大しはじめた令和二年春頃より福祉関係の仕事柄、厳しい行動制限の通達があり、教室の参加や大会出場を自粛し、長い間練習から遠ざかっておりました。そんな折、令和三年七月、共に還暦を迎えた同級の窪田さんより「ワクチン接種策もとったし、先の競吟大会に連吟で出場しませんか？」とのお誘いがありました。「今やらねば」と強く感じ、場合によっては不参加覚悟のエントリーでした。感染拡大に伴い公民館も閉鎖され練習場所に四苦八苦。咳込み、声が続かない厳しいスタートです。しかし本番では相方の窪田さんの隣に立った時には安心と心地よさを感じました。信頼し吟がピタリと合った時にはうれしくて、楽しくて。「私達を見て！聞いて！」と強い高揚感を覚えました。詩吟ができる、連吟が楽しいと思えた瞬間でした。この気持ちが功を奏したのかもしれませんね。

最後に御指導頂きました片山先生、お教室の皆様ありがとうございました。

和歌の部　優勝

岡山皐月支部　柿本　みはる

和歌の部で優勝できたのは、音の高さを高くしたことによるインパクトがあったからだと思います。

私は詩吟に対して常に劣等感を持っていて、内田先生にいつも励まされるのですが、優勝とは無縁だと思っておりました。この和歌を選んで練習している時、ちっとも乗れない自分を発見しました。それは子供が宝であるという憶良の気持ちがわからなかったからでした。表面的には理解しても本当に自分の心に響いてこないのでした。

そんな時夢を見ました。憶良の時代に全ての生き物が土の中に何層も重なって眠る水底の中を、私がゆらりゆらりと歩いているのでした。子供が生まれても生き延びていくことが奇跡のような時代に、親子であることの不思議さと愛おしさをイメージさせられる夢でした。

でも、それも浅い理解だったと今では思っています。熱心な仏教徒である憶良が煩悩に打ち勝とうとして苦しんだ結果、お釈迦様でも自分の子を愛しく思うのであれば、自分のような者が子供を愛しく思うのは当然だとして、素直に高らかに自分の気持ちを謳った詩だと気づかされます。つまり、今回の経験で、私は作者の側に身を置いて詩をよく鑑賞することが、吟を生き生きと詠ずることにつながるのかなと思いました。

近代詩の部　優勝

岡山梢雲支部　虫明　隆二

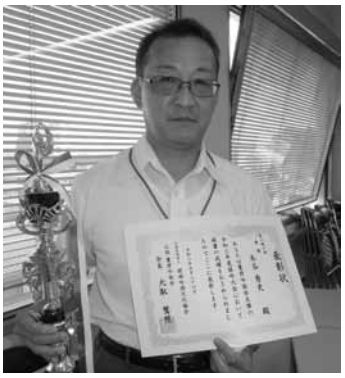
この度は、鷺照吟詠会後期競吟大会にて近代詩の部で優勝という栄誉を授かり、この上ない喜びです。コロナ禍の最中、こうしてみんなで集まって競吟大会が開催されたことに安堵すると同時に、役員の先生方の並々ならぬご尽力に心より感謝致します。

一昨年、初めて新体詩の部に出場し、思いのほか気持ちよく吟じることができたため、絶句の吟詠よりも自分に向いているようなイメージが有り、今年も近代詩に挑戦致しました。ただ、普段の吟詠の吟法とは全く違うイメージなので練習すればするほど難しく、イメージが離れていくような感じを受け、本部の先生の音源を何度も聞きながら、自分なりの表現を探すのに苦労しました。

「山のあなた」という詩の内容をよく理解するために、ラジオドラマ「山のあなた」を聞いて、「幸せとは何か」を問う重いテーマを感じ、そのあたりが表現できたらという思いで練習致しました。

本番では同じ吟題の方はいないため、自分のことに集中し気持ちを込めて吟じたことが、頭書の成績に繋がりました。次回は和歌に挑戦してみたいと思っています。色々なタイプの詩を吟ずることで、新たな気づきがあるように思います。

最上級の部　優勝
岡山有朋支部　木谷　秀史
テレビドラマ「ドラゴン桜」桜木健二の言葉から得た教訓



感染症対策のため、まん延防止等重点措置と緊急事態宣言の期間が長かった令和三年ですが、そういった中で開催された競吟大会は、詩吟を楽しむ上で刺激になりました。詩の意味・解釈を基に「西南戦争」や「激戦の様子」についてイメージを膨らませ、漢詩の言葉の言い方やスタミナ配分を考えて・・・と、自分なりの備えをして大会に臨みました。

ところで、自由に出歩くことが容易でないストレスを、今年もテレビドラマの視聴で発散しました。熱中した「ドラゴン桜」！　龍海高校の東大専科で監修を務める弁護士、桜木健二の言葉には、詩吟上達につながる（であろう）名言がありました。

（桜木）「勝負に勝つにはまず弱点を知ること。それも、己の弱点を知ることだ。つまり、苦手な分野を徹底的に反復して克服する。それが合格への一番の近道だ」。

（桜木）「規則正しい生活により、習慣性が身に付く。そして勉強するサイクルが生まれる。勉強することが当たり前になったら、勝利は確実だ。日々の生活を大切にする生徒は、受験には勝つのだ」。

コロナ禍のため行動制限が強いられる日々は続きますが、自分ができることを見付けて一層研鑽を積んでまいりたいと考えています。光栄ある賞を頂きありがとうございました。

岡山県連合会競吟大会と吟詠研修会　報告
岡山県連合会事務局　石田　隆

令和三年度の関西吟詩文化協会岡山県連合会の競吟大会ならびに岡山地区吟詠研修会が八月二十二日に天神山文化プラザホールにて開催されました。折しも岡山県が、まん延防止等重点措置地区に指定された直後であり、県有施設である天神山文化プラザも閉館になっていましたが、あらかじめ計画されており、中止または延期が困難な行事は開催してもよいという特例のもと、感染症対策に万全を期した上で開催することとしました。

競吟大会は参加者五十一名と、昨年同様若干参加者が少なかったことはありましたが、本年度も熱の入ったレベルの高い吟が多く、新人の部から吟士権の部まで素晴らしい練習の成果を発揮して頂きました。

吟詠研修会では総本部より四名の先生方にお越し頂きました。指導部長である古賀千翔先生には和歌「四万十に」及び「たわむれに」の講習を、同副部長の藤本曙冽先生には近体詩「道程」及び「小板橋」の講習をして頂きました。漢詩には慣れている我々には、和歌や近体詩は非常に難しいものですが、両先生には言葉の発し方、音程の取り方、音の伸ばし方等、丁寧にご指導頂き、有意義な講習となりました。

吟詠実技指導ではいつものように、会員を対象にどうすれば吟が上達するか、個々人の吟に合わせて丁寧にご指導頂き、充実した研修となりました。来年度はぜひ自分もご指導頂きたいと思われた方も多かったのではないでしょうか。

最後に本部講師吟詠として総本部の小嶋峰翔先生及び林夕優先生を加え、四人の先生方に範吟を頂き、研修会を締めくくって頂きました。素晴らしい吟に触れることで自分の吟を見直し、また練習に励みたいと思うと同時に、この素晴らしい吟詠という文化をより多くの皆様に伝えたいという思いを強くしました。

競吟大会に向けて練習を重ねてこられた皆様には、今後ますますのご精進・ご活躍をお祈り致します。本年度の開催にあたっても、多くの理事・役員の方に様々なところで献身的にご協力頂きましたことに深く感謝申し上げます。

来年度こそ、コロナが収まり、会場内でも思いっきり声が出せる研修会ができることを切に願っております。

【栄えある優勝者　喜びの声】
新人の部　優勝
岡山岡南支部　熊澤　勝彦

始めに役員の方々に御礼と感謝を申し上げます。この度はコ

ロナ禍にもかかわらず、予防対策を講じて競吟大会を開催して頂き、ありがとうございました。私は新人の部で優勝できましたこと、本当にうれしく思います。これも、吟法を丁寧にゆっくりと私に理解できるよう熱心にご指導して頂いた先生のおかげだと思います。

実は私は昔、詩吟を習っていましたが、仕事の都合で疎遠になり少し休息していました。また詩吟をしたくなり、近くの公民館で詩吟をしているとの情報を聞き、詩吟の練習を見学して驚きました。先生の指導の下、素晴らしい声で朗朗と詩吟をしているのに感銘し、家に帰って家内に相談したところ、承諾をもらい入会を決めました。

これからも健康の為、そして好きな趣味を糧に、人生を楽しく過ごしていこうと思います。先生のご指導の下、吟の仲間と切磋琢磨し、精進していこうと思いますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

初級の部　優勝

岡山中山支部　中尾　惠

令和三年度岡山県連合会競吟大会・初級の部におきまして優勝という栄誉を授かり大変嬉しく思っております。詩吟を始めて三年目になりますが、人前で吟ずる事に未だ慣れず、公民館の練習でさえ心臓が高鳴り、頭

が真っ白になる一分五十八秒です。どなたも緊張するとおっしゃいます。

最近テレビ番組で高校生や中学生の若い子が「カラオケバトル」などと言う番組で、堂々と上手に歌っている姿を見ます。以前は単純にテレビの歌番組を楽しんでいましたが、最近はその子達の度胸の良さに感心してこのような大舞台で実力を発揮出来るなんて凄い！と、そちらに注目しています。

ある娘さんはお母さんと二人三脚でカラオケに行き、一日何時間も一つ一つ弱点を克服し、百点を出すまで毎日練習を重ねていると言っていました。

私は腹式呼吸での発声がうまく出来ず、基音の三がうわずり音を外してしまいがちです。音が外れるのが気になりだすと力が入り、又音を外す、ということの繰り返しです。声の出し方や身体の力の抜き方などのアドバイスを頂き、コンダクターで毎日試行錯誤しながら練習をしております。

今はまだ自分の中での百点はおろか、八十点もまだまだ当分出せずとも、色々な場所で詠う事で人前での練習も出来、又大会に出場する事で課題詩の練習も重ね吟も上達出来ればと思っております。

これからもご指導宜しくお願い致します。

上級の部　優勝

岡山中山支部　佐藤　昌子

今回は、「坂本龍馬を思う」に挑戦しました。三十三年という短くも濃密な生涯を、颯のように駆け抜けた風雲児坂本龍馬。誰しも知らない人はいないという魅力的な人物です。

若き日の龍馬は、江戸で剣術修行の傍ら佐久間象山の私塾に通ったり、土佐に戻って城下屈指の知識人とされていた河田小龍のもとで国際情勢を学んだり、と積極的に見聞を広めていきます。また、勝海舟の片腕として活躍し、薩摩の地で日本初の商社「亀山社中」を設立します。

そうした中、お龍さんと出会い結婚します。龍馬は、その当時日本ではまだ珍しかった新婚旅行をしています。ピストルを所持したり、皮のブーツを履いたりと、人々がアッと驚くことをサラリとやってのける注目を浴びる人だったのですね。こういうところも、今もなお人々を魅了してやまないところなのでしょうか。「ビックボス」みたいですね。

龍馬は、大政奉還を成し遂げるため奔走しましたが、潜伏していた京都四条河原町の近江屋で中岡慎太郎との会談中に刺客によって襲撃を受け、日本の夜明けを見ることなく三十三歳の若さでこの世を去りました。維新の大業を成し遂げたのは、龍馬あってこそだったのです。

今では、社会は驚くような発展を遂げ、私たちの暮らしもびっくりするほど変わりました。便利なスマホが普及して、高齢者でも便利に使いこなしています。一般人が月旅行を楽しむ時代になるかもしれないのは、やはり坂本龍馬あっての事でしょう。日本の歴史を変えた熱血溢れる行動力と、ダイナミックな生きざま！

そんな龍馬を思っての吟「坂本龍馬を思う」です。と、ここから私の出吟の現実はというと、いつもの事ですが課題山積みです。音程、声量、読み、集中力、詩の説得力などなど、数え上げればきりがありません。果たして龍馬を思って吟じたかというと、とてもそんな余裕など無くて、間違わないように詠う事だけで精一杯でした。詩を語れる余裕をもって吟ずることを目標に、これからも精進していきたいと思います。それには基本が大事、日々の練習が大事。

最後に、大取先生はじめ、諸先生、諸先輩方のご指導があり、この様な賞を頂くことが出来ましたこと感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

師範代の部　優勝

岡山江陽支部　川根　幾恵

本年もコロナ禍の中、発表の機会を頂き、感謝しています。

昨年の「白帝城」では伸び伸びと吟ずる爽快感を感じましたが、「太田道灌」は苦手な音や言い回しもあり、先生や先輩方に

アドバスを頂きながら模範吟に近づこうと練習を重ねました。

幸せなことに、模範としていた古賀先生より直接ご指導頂き、詩吟の奥深さ、新たな楽しさを教わりました。それは、一つは発声の問題、もう一つは言葉の言い方でした。私はただ言い回しや音のとり方を真似ていただけでした。表現の根拠には、詩の理解や、人物の心情に寄り添うことが不可欠だったと気づいたのです。詩を理解することで言葉のニュアンス、声の強弱、間など、今まで無自覚に行っていたことを、もっと意図をもって取り組んでいきたいと思いました。そうすることで自分の表現になったり、いろいろな人の共感を得たりできるのでしょう。

詩は本来、国や時を超えた普遍的なものですが、詩吟を通じて、それらに深く共感する感動が味わえる。私の中で詩吟の世界が広がった一年になりました。

準師範の部　優勝

岡山総楽支部　剣持 和江

令和三年度も前年と同じく新型コロナの影響で行事が中止・延期となっていく中、岡山県連合会競吟大会・吟詠研修会を開催してくださった先生方、役員の方々、そして出吟者の吟友の方々、本当にありがとうございました。その中で、「準師範の部」で栄えある優勝となり嬉しく思っております。

春から教室でのお稽古は休講、その代替でＺｏｏｍを通じてのリモート練習会が定期開催となり、思い切り声が出せない夜の自宅からの参加は、もやもやとした感じが続きました。

教室でお稽古ができること、競吟大会が開催されること、研修会、発表会、吟行、懇親会などがあることは、もはや普通ではないということを、今年も、そしてもしかしたら今後もそうかもしれない、と思いながら今年度が始まりました。前期競吟大会中止。昇格試験は地元開催に変更。岡山県連合会の競吟大会は、申込期限が延長されたことで、初めての参加をギリギリに決めました。

休日になると、人が少なくて声を出せそうな場所を求め、ウォーキングがてら近くの公園・丘・山などを散策。まずは七月の昇格試験に向けてモチベーションを保ちつつ古詩の練習。六月下旬から教室再開。昇格試験後は、気持ちが萎えそうになることもありましたが、競吟大会に向け休日の朝はひたすら散策を続けていました。

再び新型コロナが蔓延し始めた中、本当に競吟・研修会が開催されるということを知らされ、感謝しつつ当日を迎えました。喉が開くこと、素直に発声ができることのみ思ってはいたのですが、緊張するワ、足は震えるワと、息切れしそうになりながら、何とかやり終えたという状態。今回は運が良かったのでしょう。

今の自分のモチベーションは何だろうと考えると、「詩吟がうまくなりたい、吟友たちと長く一緒に続けていきたい」そんな思いのようです。古賀先生、藤本先生の吟詠研修を受けると、改めて詩吟がうまくなりたいと思います。たまたま声がその時は出た、という状態から、まずは気持ちと共に安定的に声が出る状態を目指していきたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

吟士権の部　優勝

岡山梢雲支部　中山　理恵

岡山県連合会競吟大会は、例年十二月に開催される総本部吟士権大会へのステップとなる。まずはここで上位二名に選ばれねばならない。ところが近年、吟士権の部は多士済々、実力拮抗の感あり。日頃の無難な吟詠よりの脱却を目指し、本数を八本に上げて臨むも、今回は落選かと思いきや、運よく決勝切符を得ることができた。

さて、吟士権大会。マスク生活の賜物か、体調も良く、昨今は声もよく出るように感じていた。会場はマイクの具合も良い中ホール。出吟は午後で、声もマイクにのり、まずまずの出来であったと自己分析していた。しかしながら、結果は岡山代表として入賞を目指すも叶わず、落胆することとなった。

競吟は結果が全てとは言えない。挑戦することで一つの明確な目標が定まり、練習も具体的となる。吟力もそれなりに高まるとは思うが、結果の分析が重要だと思う。テープを聴き直してみるが、実のところよくわからない。音程に微妙な狂いがあったのか、吟調が一本調子であったのか、そもそもレベルに達していないのか。明らかなのは努力不足であることだ。

ここを直すと決めたら、指導されたことを素直に受け止め、できるだけ早期に克服すべく努力する。私はそれができる美質に欠けているとつくづく思う昨今である。いや、昨今とは言えず昔からなのだ。

来年は一から出直そう。

和歌の部　優勝

岡山中山支部　佐藤 昌子

今回は山上憶良作「銀も」で出吟させて頂きました。この和歌との出会いは五年前です。

詩吟を習い始めて半年後に公民館の文化祭がありました。構成吟をするとの事で、その中で私に割り当てられた和歌がこの「銀も」でした。歌意を見ると、

子供とは「金銀に勝る宝である」という、優しく綺麗な歌でした。一瞬でこの和歌を好きになってしまいました。音階も優しく、和歌っていいなあと思いました。先輩と合吟をさせて頂きましたが、先輩はとても綺麗に詠われますので、ウットリ聞いていたのを覚えています。新米の私には難しくてなかなか上手には詠えませんでしたが、大取先生や先輩から教わりながら一生懸命練習しました。人生初の文化祭での発表ということで、楽しみにしていましたが、残念なことに急用で、私は文化祭に参加する事ができませんでした。私のデビュー曲「銀も」は、幻になりました。それ以来、この「銀も」は、私の心の蔵にしまい込んだままでした。

久しぶりに蔵の大掃除をしていたら、ホコリをかぶって隅の方に転がっていた「銀も」が朝日を浴びてキラキラと輝きました。「銀も」との二度目の出会いでした。今日、この岡山県連合会競吟大会の舞台で発表出来て嬉しいです。おまけに優勝という身に余る栄誉を授かりこの上ない喜びです。この和歌はストーリー性があるので、感情移入がしやすかったのだと思います。ただ、吟はいつもの事ながら舞台に上がるとガチガチで、のどが絞まり高音も伸びません。うまく出来なかった吟法もあります。

有名なアナウンサーの話を何かで読んだのですが、「自分は物凄く緊張するが、するべきことをきちんと出来る様に訓練を積んでいると」のことでした。できないのは自信の無さであり、練習して自信が付けば緊張しても出来るということ。私もしっかり練習して自信を付け、力が発揮出来る様に努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、大取先生はじめ、諸先生、諸先輩方のご指導があり、この様な賞を頂くことが出来ましたこと感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

支部・教室便り

岡山有朋支部公民館教室

公民館教室　石田　隆

こんにちは。有朋支部公民館教室です。私たちは、昼の部と夜の部で活動しています。ご指導頂いているのは、多田葦照先生です。多田先生は、非常に博識で、中国の漢詩を学ぶ時はその歴史的背景や地理的背景、人物像等、詳しく解説してくださいます。また、日本の漢詩を学ぶ時には、作者のことや詩に読まれている場所のこと、漢字の使い方等、大変詳しく教えて頂けます。特に、地理的背景については、ご自身で訪れておられる場所も多く、私たちも興味をもって漢詩の学習ができます。

公民館教室は、小橋に近い岡山市中央公民館教室が前身の歴史ある教室でしたが、建物の耐震性に問題があり、現在は平成三十年に新築された操山公民館で練習しています。中央公民館当時から、渡辺鷺昭先生、福田俛照先生、多田葦照先生と先生方も変わり、人数も今は昼四名、夜六名と少なくなってしまいました。何とか会員を増やしたいと思っておりますが、なかなか思うようにいきません。さらに昨年からコロナの影響で度々公民館が休館になり、練習もままならない状況ですが、何とか公民館の灯を消さないように頑張っていきたいと思います。

比較的町中にあり、駐車場も広いので、詩吟に興味がある方はぜひ操山公民館をお訪ねください。練習は昼の部が第二・第四月曜日の一時から三時、夜の部が第二・第四火曜日の六時半から八時半に行っております。

少人数になってしまいましたが、引き続き多田先生を中心に頑張っていきたいと思います。今後とも有朋支部をよろしくお願い致します。

岡山中山支部
京山公民館教室（夜の部）

河田　博行

京山教室（夜の部）は二〇一七年四月に開設されました。「新規会員増強と併せ、既存会員の皆さんが仕事帰りにでも立ち寄って練習が出来る場所を確保したい」との大取先生の熱い想いを形にした、虫明節子さんのご尽力によるものです。

当教室は、開設早々から参加して頂いている本郷ご夫妻を始め、十一人の支部の枠を超えたメンバーで構成されています。自己流の偏った吟詠指導法に陥っていないかを見直す場にしたいという講師の方、仕事帰りに参加しやすい場所なので日頃の練習不足を補完出来ると言われる方、他支部の方との練習で刺激を受け吟力向上を目指したいとおっしゃる方…。

コロナ禍で室内での声出しが出来なかった時には、本部より借用した吟道大学のＤＶＤを視聴したり、運動公園の水銀灯の下で練習したり、大取先生の熱心なご指導の下、練習に励んでいます。

第一・第三金曜日の十九時～二十一時に練習をしていますので、是非気軽にお訪ね下さい。

■令和三年度 鷺照吟詠会 競吟大会

令和三年九月二十六日
労働福祉事業会館

新人の部
優勝　本郷田鶴子（中山）
準優勝　上月　将司（岡大）
三位　片岡紀久夫（岡南）

初段の部
優勝　中尾　恵（中山）

二段の部
優勝　前田　貴一（岡大）
準優勝　本田　雄也（岡大）
三位　細谷　亮太（岡大）

三段の部
優勝　神崎　和子（中山）
準優勝　竹原　美子（梢雲）

華頂の部
優勝　中尾　栄子（吉照）
準優勝　内座　弘子（岡南）
三位　北村　恭子（岡南）

壮年Ⅱ部
優勝　林原　茂樹（総楽）
準優勝　今井　彩乃（梢雲）
三位　嶽　惣爾（中山）

連吟の部
優勝　白神　陽子（総楽）
窪田　昌子（総楽）
川根　幾恵（江陽）
準優勝　鈴木　一子（江陽）

和歌の部
優勝　柿本みはる（皐月）
準優勝　剣持　和江（総楽）

近代詩の部
優勝　虫明　隆二（梢雲）

最上級の部
優勝　木谷　秀史（有朋）
準優勝　内座由紀葉（岡南）
三位　池上　茂（中山）
四位　花房　早苗（梢雲）

■令和三年度 岡山県連合会 競吟大会

令和三年八月二十二日
岡山県天神山文化プラザ

新人の部
優勝　熊澤　勝彦（岡南）
準優勝　中村　浩友（岡南）

初級の部
優勝　中尾　恵（中山）
準優勝　青木　朝紀（岡南）

上級の部
優勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　虫明　隆二（梢雲）
三位　田中　啓子（東風）
四位　竹原　美子（梢雲）

師範代の部
優勝　川根　幾恵（江陽）
準優勝　今井　彩乃（梢雲）

準師範の部
優勝　剣持　和江（総楽）
準優勝　青木　耕二（岡南）
三位　藤原　美喜夫（江陽）
四位　柿本　みはる（皐月）

吟士権の部
優勝　中山　理恵（梢雲）
準優勝　木谷　秀史（有朋）
三位　内座由紀葉（岡南）
四位　坂本　朋義（岡南）
五位　池上　茂（中山）
六位　岡田　正和（総楽）

和歌Ⅱ部
優勝　佐藤　昌子（中山）
準優勝　中尾　恵（中山）
三位　田中　好子（中山）

■総本部 新人中間層競吟大会

令和三年十一月十四日
エーリック（尼崎）

初級の部
入賞　青木　朝紀（岡南）

上級の部
八位　佐藤　昌子（中山）

和歌の部
入賞　中尾　恵（中山）
入賞　佐藤　昌子（中山）

■総本部 全国指導者級 吟士権者決定吟詩大会

令和三年十二月十二日
高槻現代劇場

師範代の部
六位　川根　幾恵（江陽）

準師範の部
入賞　青木　耕二（岡南）

令和三年度 慶祝・吟功賞・昇格・昇段

■敬老祝い

傘寿　岡本　逸照（梢雲）
喜寿　坂本　繃照（岡南）
古希　内田　菖照（皐月）

■昇格

師範　林原　樹丘（総楽）
剣持　憧照（総楽）
柿本　美菖（皐月）
鈴木　厳翔（江陽）

準師範　池下　繃煌（岡南）
白神　嘉丘（総楽）

師範代　虫明　隆慧（梢雲）
三宅　迪照（中山）
渡辺　省一（総楽）

■昇段

八段　畝木　颯照（江陽）
虫明　鷲麗（中山）

七段　柿本　美菖（皐月）
中尾　和子（総楽）
林原　樹丘（総楽）
空　紈照（総楽）
濱田　通南（総楽）

六段　藤原　瞳桂（梢雲）
今井　瑞華（梢雲）
山根　通嘯（総楽）

五段　棚田　徹照（瀬戸）
虫明　隆慧（梢雲）
塚本　里慧（梢雲）
塚本　槃慧（梢雲）
川根　颯照（江陽）

四段　三宅　迪照（中山）
渡辺　省一（総楽）
加藤　典桜（総楽）

三段　竹原　羊慧（梢雲）
佐藤　鷲華（中山）
神崎　笙咲（中山）
田中　啓丘（東風）
安井　一丘（東風）
大野　典空（総楽）
北山　遼也（岡大）
美崎　暢子（岡大）

二段　柴川　晃輝（岡大）
中藤　繃誠（岡南）
川村　耀梢（梢雲）
荒木　耀楓（梢雲）
芦田　耀仙（梢雲）
芦田　耀華（梢雲）
佐藤　真通（総楽）

初段　黒森　稜弥（岡大）
小川　凛（岡大）
青山　大樹（岡大）
前田　貴一（岡大）
本田　雄也（岡大）
細谷　亮太（岡大）
秋山奈々絵（岡大）
相野フミ子（岡南）
青木　朝紀（岡南）
藤田　恵子（梢雲）
中尾　恵（中山）
永原　龍成（岡大）
牧　沙良（岡大）
熊澤　勝彦（岡南）
中村　浩友（岡南）
三宅　弘子（岡南）
本郷　勉（中山）
本郷田鶴子（中山）
土持　弘（総楽）
吉田　雅章（総楽）

公認　鷺照吟詠会　教場一覧

2022.4.1 現在

市町村	支部名	教場名（教室名）	場　　所	開催曜日・時間	開催回数（月）	講師（問合先）
岡山市	岡山大学吟詩部	岡山大学吟詩部	岡山大学新 BOX 棟 （岡山市北区津島中 1-1-1）	毎週　水・土曜日 12：30 ～ 16：00	8 回	木谷睨秀
	岡山岡南	楓教室	カラオケ　かじゅありー （岡山市南区築港緑町 14-1）	第 1.3.4　月曜日 19：00 ～ 21：00	3 回	武川琥照
	岡山岡南	岡南教室	岡山市立岡南公民館 （岡山市南区若葉町 22-16）	第 1.2.3　火曜日 13：00 ～ 15：00	3 回	坂本繃照
	岡山岡南	岡南第二教室	古民家ハウス （岡山市北区十日市東町 5-6）	毎週　火曜日 13：00 ～ 15：00	4 回	青木琥真
	岡山梢雲	旭教室	岡山市立旭公民館 （岡山北区広瀬町 3-26）	第２・４　木曜日 9：30 ～ 11：30	2 回	中山瞳伸
	岡山梢雲	高島公民館教室	岡山市立高島公民館 （岡山市中区国府市場 99-5）	第１・３　木曜日 13：00 ～ 15：00	2 回	中山瞳伸
	岡山梢雲	平野教室	北平野集会所 （岡山市北区平野 1014-5）	第 2.4　水曜日 14：00 ～ 16：00	2 回	深井耀照
	岡山瀬戸	瀬戸教室	菊山公会堂 （岡山市東区瀬戸町菊山 50）	第１・３　木曜日 19：00 ～ 21：00	2 回	石原虎照
	岡山総楽	庭瀬教室	岡山市立吉備公民館 （岡山市北区庭瀬 416）	第 2.4　日曜日 15：00 ～ 17：00	2 回	片山鷺丘
	岡山中山	一宮公民館教室	岡山市立一宮公民館 （岡山市北区一宮 638-1）	毎週木曜日 19：00 ～ 21：00	3 ～ 4 回	大取鵞照
	岡山中山	京山公民館教室（夜）	岡山市立京山公民館 （岡山市北区伊島町 2-3-38）	第 1.3　金曜日 19：00 ～ 20：30	2 回	大取鵞照
	岡山中山	京山公民館教室（昼）	岡山市立京山公民館 （岡山市北区伊島町 2-9-38）	隔週　金曜日 13：00 ～ 15：00	2 回	田中咲声
	岡山中山	岡輝公民館教室	岡山市立岡輝公民館 （岡山市北区旭本町 1-80）	第 2.4　土曜日 10：00 ～ 12：00	2 回	河田轟声
	岡山中山	芳田公民館教室	岡山市芳田公民館 （岡山市南区西市 96-1）	第１．３土曜日 10：00 ～ 12：00	2 回	大取鵞照
	岡山東風	東風教室	済生会ﾌｨｯﾄﾈｽ＆ｶﾙﾁｬｰｸﾗﾌﾞ （岡山市北区昭和町 12-15）	毎週　金曜日 13：30 ～ 15：30	4 回	片山鷺丘
	岡山有朋	公民館教室（昼）	岡山市立操山公民館 （岡山市中区国富 3-9-12）	第２・４　月曜日 13；00 ～ 15：00	2 回	多田葦照
	岡山有朋	公民館教室（夜）	岡山市立操山公民館 （岡山市中区国富 3-9-12）	第２・４　火曜日 18：30 ～ 20：30	2 回	多田葦照
	岡山皐月	さつき教室	花　詠　庵 （岡山市中区湊 238-7）	第 1.3　火曜日 10：00 ～ 12：00	2 回	内田菖照
	岡山皐月	さつき教室	花　詠　庵 （岡山市中区湊 238-7）	第 2.4　木曜日 10：00 ～ 12：00	2 回	内田菖照
赤磐市	岡山江陽	山陽教室	赤磐市立中央公民館 （赤磐市下市 337）	第１・３　土曜日 10：00 ～ 12：00	2 回	永井厳照
吉備中央町	岡 山 北	納地公民館教室	吉備中央町立納地公民館 （加賀郡吉備中央町納地 1266-2）	第 2.4　火曜日 13：00 ～ 15：00	2 回	伊賀郎照
	岡山吉照	吉川公民館教室	吉備中央町立吉川公民館 （加賀郡吉備中央町吉川 3930-8）	第１・３　木曜日 20：00 ～ 22：00	2 回	新池亥照
総社市	岡山総楽	総社教室	中央公民館 （総社市中央３丁目 1-102）	毎週　木曜日 19：00 ～ 21：00	4 回	田辺通照
倉敷市	岡山総楽	大島教室	大島会館 （倉敷市大島 532-2）	毎週　火曜日 19：00 ～ 21：00	4 回	片山鷺丘
兵庫県 神戸市	岡山総楽	神戸教室	六甲勤労市民ｾﾝﾀｰ （神戸市灘区深田町 4-1-39）	第 2.4　土曜日 14：00 ～ 17：00	2 回	田辺通照
九州 鹿児島市	岡山総楽	九州教室	甲東福祉館 （鹿児島市新屋敷町 6-35）	月　10：00 ～ 12：30 金　18:30 ～ 21：00	7 回	濱田通南

令和４年度　鷺照吟詠会 年間事業計画

月	鷺照吟詠会 行事		鷺照吟詠会 研修会		白鷺連合会		関西吟詩総本部		岡山県連合会	
4/3	6 27	⑦常任理事会 （予算･決算）生涯学習センター 総会（生涯学習センター）			11	常任理事会⑥	5 11	正副会 正副・理事会	27	総会（生涯学習センター）
4	17	①常任理事会 会報発行			3 16	競吟大会（中止） （ｴｰﾘｯｸ） 常任理事会①	9 16	正副会 正副・理事会		
5	15 〃	前期競吟大会 (生涯学習ｾﾝﾀｰ) ②常任理事会	15	①研修会	14 21	総会 常任理事会② 60周年委員会④	7 21	元老相談役参与正副会 正副・理事会		
6					11	常任理事会③	4 11 12 19	総会・正副会 正副・理事会 特別研修会 昇格試験（地方）		
7	10 〃	③常任理事会 (後期競吟大会) 合同昇段試験	10	②研修会 （師範）	9	常任理事会④ 60周年委員会⑤	2 9 17	正副会 正副・理事会 昇格試験 （師範代・準師範・師範）		
8	28	④常任理事会 (後期競吟大会・集い)					2 6 7	正副会 正副・理事会 吟詠普及研修会(岡山)	7	競吟大会 （岡山県天神山文化プラザ）
9	25	後期競吟大会	25	③研修会	10	常任理事会⑤ 60周年委員会⑥	3 10 11	正副会 正副・理事会 碑前際 研修会		
10	16	⑤常任理事会(集い)			30	60周年記念祝賀会 （宝塚ホテル）	1 19 ～21	正副会 国内移動教室		
11					12	常任理事会⑥	4 12 13 20	正副会 正副・理事会 新人･中間層大会 研修会（師・準・師範代）		
12	4	集い （天神山文化プラザ）	4	④研修会 （外部講師）			3 10 11	正副会 正副・理事会 師範代・準師範・吟士権大会		
5/1	15 29	初吟会 チャリティーコンサート			8 〃	新年互礼会 常任理事会⑦	7 9 14	正副会 代議員会議・新春吟詠大会 正副・理事会		
2	12	⑥常任理事会 (事業計画)	12	⑤研修会 （準師範）			4 ～5 10	吟道大学 正副会		
3	5 26	⑦常任理事会 （予算・決算） 総会(生涯学習ｾﾝﾀｰ)	5	⑥研修会 （師範代）	11	常任理事会⑧	4 10 11	正副会 代議員選挙 各地区代議員会議・地区代表者会議 正副・理事会	26	総会（生涯学習センター）

編集後記

今年は二年ぶりの「集い」が開催され、新型コロナウイルスに立ち向かう我が会の結束力と、詩吟への熱い想いを再確認することができ有意義でした。

会報の編集をしながら感じることは、好成績をおさめた方々は、日頃から様々な工夫と不断の努力をされているということ、さらに次回に向けてチャレンジする姿勢などは非常に見習うべき点が多く、毎回感銘し刺激を受けています。

私事で恐縮ですが、昨年十二月に左臀部から太もも裏、ふくらはぎにかけて眠れないほどの痛みに襲われる症状の脊柱管狭窄症に罹りました。加齢、姿勢、体質、ストレスなど様々な原因が考えられるようです。昨年還暦を迎え、年齢を重ねていることを実感しました。リハビリで教えてもらったお腹の内側の筋肉などの体幹を鍛える運動が、図らずも詩吟の正しい発声につながると気づきました。

腹の底から声を出すことが出来ず長年悩んできましたが、現在わずかな手応えをつかみつつあり、継続し発声方法が習得できれば「病気の功名」と言える日が来るのかも知れません。

（木南　春樹）